

令和4年度 第1回地域福祉活動計画推進委員会 議事録

日時 令和5年3月24日（金）

午前9時半から

場所 地域福祉会館2階 ボランティア活動室

出席 別紙参照

1 開 会

2 案 件

- (1) 第4次地域福祉活動計画について
 - ・第4次地域福祉活動計画の説明
(参照：第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画冊子)
- (2) 第4次地域福祉活動計画の進行管理について
 - ・計画の進行管理表により説明（参照：進行管理表）

【基本目標 1 意見】

委員

コロナの貸付の返済事務について、府社協からは借受人宅を訪問等のアウトリーチを示されているが、市社協はどういう対応を考えているのか。借受された方については食べるものに困っていることが予想されるが、市社協として困っていらっしゃる方に対してどのように情報提供をしているのか。また子ども食堂の拡大についてはどのように考えているか。成年後見制度について、家族の理解はどうなっているか。一般の方向けの周知啓発的な取り組みはどうなっているか。

事務局

返済が難しい方に関しては免除、猶予をご案内している。また住所変更をされており必要な申請が遅れている方に関しては、住所変更から案内をし、その後免除、猶予等の申請を提案している。令和5年度からは借受人に対し新たにフォローアップ支援として訪問や電話、チラシ発送等を活用したアウトリーチを検討している。

また内部では、貸付担当とコミュニティーソーシャルワーカー（以下CSW）が常に連携をしており幅広い視点で相談を受け付けている。

食料に困られている方に関してはCSWの事業の一環として食品預託払出事業を活用している。市民の方、企業から寄付でいただいた食品を市社協でストックし、対象者に払出をする。他にも子ども食堂にも払出をしている。情報提供方法は地区福祉委員会、民生委員児童委員、市の関係職員と連携し広報している。日々相談に関わる方から相談を救い上げ、情報をいただき対応している。

子ども食堂については社協は後方支援をしている。国、大阪府、市で様々な補助金が交付され開設支援がなされている。市社協でこのような情報をキャッチしたら、地域で活動している食堂に情報を渡している。メーリングリスト化して、情報を適宜情報発信している。成年後見制度については幅広く講座の開催をしている。家族にも理解を得たいと考えているが、家族関係の不和もあり現状うまくいっていないことも多い。日常生活自立支援事業では個々に伝えていっている。研修等に関しては、今後の課題の一つとしていく。

委員

成年後見制度の周知について「たかつき DAYS」での特集の取り組みをお願いしたい。

委員（回答福祉政策課）

窓口の市福祉相談支援課に伝える。

委員

福祉のまちかど相談について、未開設の地区福祉委員会についてはどの担当部署から連絡がいつているのか、開催日時等について知りたい。

事務局

福祉のまちかど相談は地区福祉委員会が設置する身近な福祉相談窓口となっており、対応は CSW、コミュニティワーカー（地区担当者）となる。開催日時については地区の実情に合わせてフレキシブルに設定している。

委員

ふれあい喫茶はあるが、福祉のまちかど相談を掲げていない。できたら自分の地区でも開催したので検討してほしい。

事務局

頂いた意見を参考に検討させていただきます。

委員

福祉のまちかど相談はすこやかテラスでも開催していると記載がある。すこやかテラスでも今後継続開催になるのか。

事務局

福祉のまちかど相談の名称は地区福祉委員会の身近な福祉相談窓口ということになっている。今回 CSW が巡回させていただくこととコミュニティボランティア（以下コミボラ）を通して相談を受け付ける流れがあるので、このような表記をしている。

委員

障がいの相談員をやっているので CSW のことは知っています。しかし一般の方に周知できてるのかどうか。紙媒体の広報であれば限界があることはわかりますが、LINE のともだち登録も少ない様子。知らなかったのもともだち登録をしておきます。

また年代的に成年後見と聞くと高齢者をイメージをする方が多いと思う。しかし障がいを持つ親からすると、親亡きあとのことを一番に考えるので、障害をもっている子どものことをどうしようかと考えることが多い。若い方の成年後見も必要ではないかと考えている。子ども、高齢者以外の 20 代 30 代の方等にも視点を置いてほしい。近年ヤングケアラーのことも見える化してきたが、社会的養護を必要とする方々が施設を卒業した後のケアリーバーと呼ばれる方の支援も不足しているので検討してほしい。コミボラのこともしらなかった、周知をしてほしい。もっと裾野を広げてほしい。

事務局

日常生活自立支援事業の契約者の平均年齢層は 40～50 代、最若年層は 20 代の方。割合で行くと認知症高齢者が 4 割、精神障がい者、知的障がい者は 3 割程度。大阪府下については特に精神障がい者が多い。日常生活自立支援事業についても継続して周知啓発していく。

【基本目標 2 意見】

委員長

ふれあい喫茶の開催状況について教えてほしい。

事務局

6割程度は再開している。

委員

災害ボランティアセンターについて、災害が終わった後のことなので、イベントとして開催するのは良いが、今回のように高槻市の訓練と同日にすることで、参加困難な関係機関がでてくるため、日を変えるのはどうか。

委員

訓練については事後的なことも含め個別にやっている。時間軸は違うが許容の範囲ではないかと考えている。

委員

同日開催すると、多くの方が市の訓練に行く。ボランティアが中心になってやってほしかったが今回は社協の慣れた方が中心になった。社協はフォローをしてほしい。場所はよかった。

事務局

様々な状況を考え、取り組みながら勉強していく。

委員

2拠点間の連携はうまくいったのか、なぜ水道の蛇口近くでやっているのか。

事務局

ポケット Wi-Fi を活用し、電気さえあれば通信が可能な状態であったので2拠点間の連携はうまくいった。本部部門のセクションとして用意された部屋が調理室だったので水道の蛇口近くでの業務になった。当日の反省としては自家発電ができる装置が必要だと感じた。

【基本目標 3 意見】

委員

小中学校で出前講座を何回しているのか。福祉教育という視点と、福祉の担い手づくりの視点が違うのではないかと。福祉の現場で働いている方の声等もっと現場を活用してほしい。LINEの啓発、広報活動はどのようなことをしているのか。駅、自治会の掲示板等にポスターは活用しているのか。

事務局

小中学校で出前講座を開催している割合は3割程度。福祉教育については高槻市民間社会福祉施設連絡会の「あんしんねっとあゆむ」と協力しながら、一緒に福祉教育に取り組んでいる。実際に福祉施設から来てもらい、障がい者理解、地域包括支援センターからは高齢者理解をすすめている。

啓発広報についてはポスターは活用していない。LINEのともだち登録については4月号の社協だよりでQRコード掲載予定としている。

委員長

小中高に対して、周知啓発はしているのか、また出前講座のメニュー作りはしているか。

事務局

コロナ以前は校長会に声掛けをしていた。改めて声掛けができるように調整していく。出前講座のメニューリストは今年度新しいものを作成したので周知啓発をしていく。

委員

大学生にも出前講座をして巻き込んでほしい。社会に出る前に福祉に触れることで、孤立しがちな方が減少すると考える。

事務局

いただいた意見を参考に検討していく。